

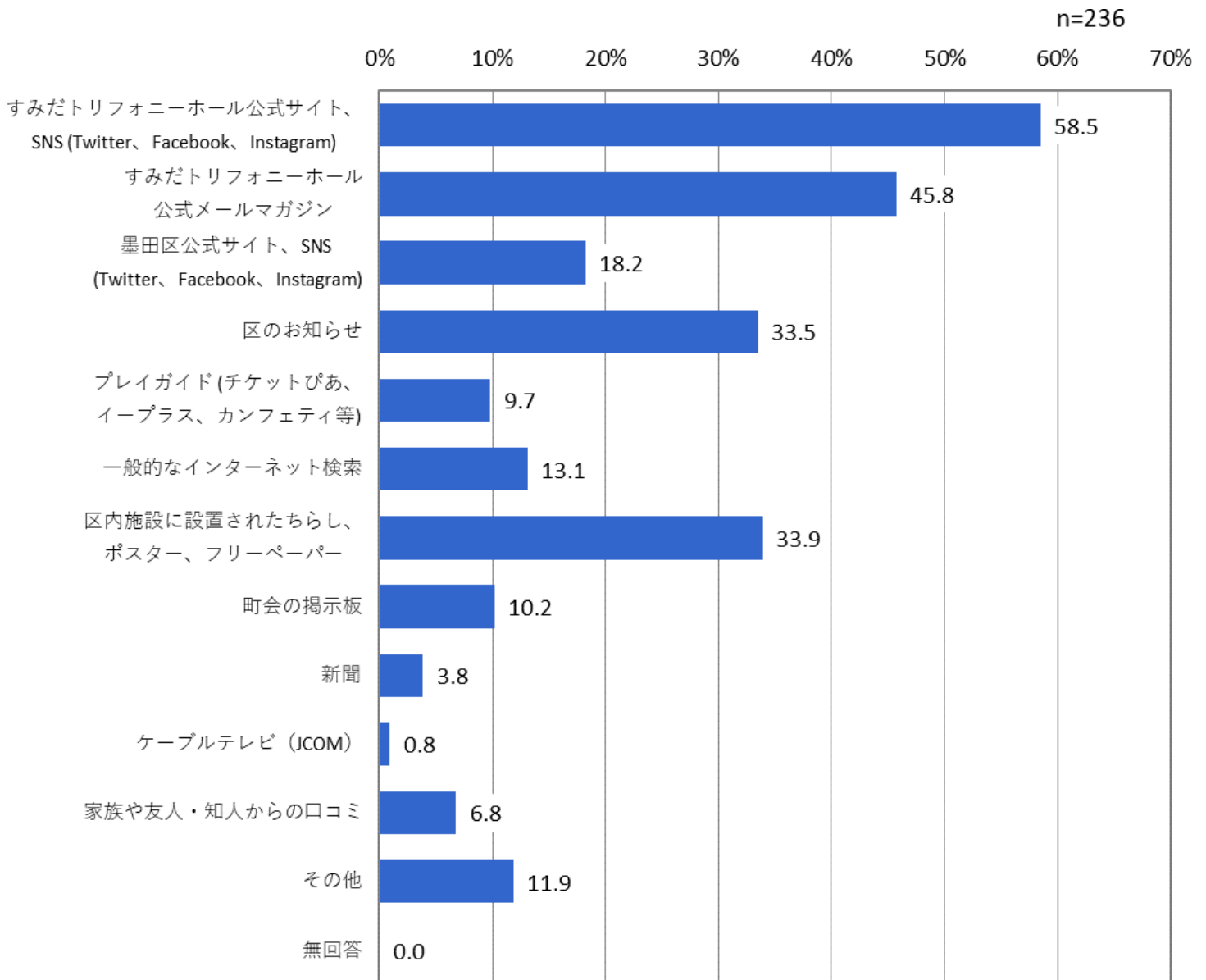
【主な調査結果】

(アンケート結果の詳細は、この画面の最終ページの一番下にある別紙「調査結果」のリンクからご覧いただけます。)

すみだトリフォニーホール情報を得る手段として日頃利用している手段 (P1)

「すみだトリフォニーホール公式サイト、SNS[Twitter、Facebook、Instagram]」(58.5%)が約6割で最も高く、以下、「すみだトリフォニーホール公式メールマガジン」(45.8%)、「区内施設に設置されたちらし、ポスター、フリーペーパー」(33.9%)、「区のお知らせ」(33.5%)が上位である。

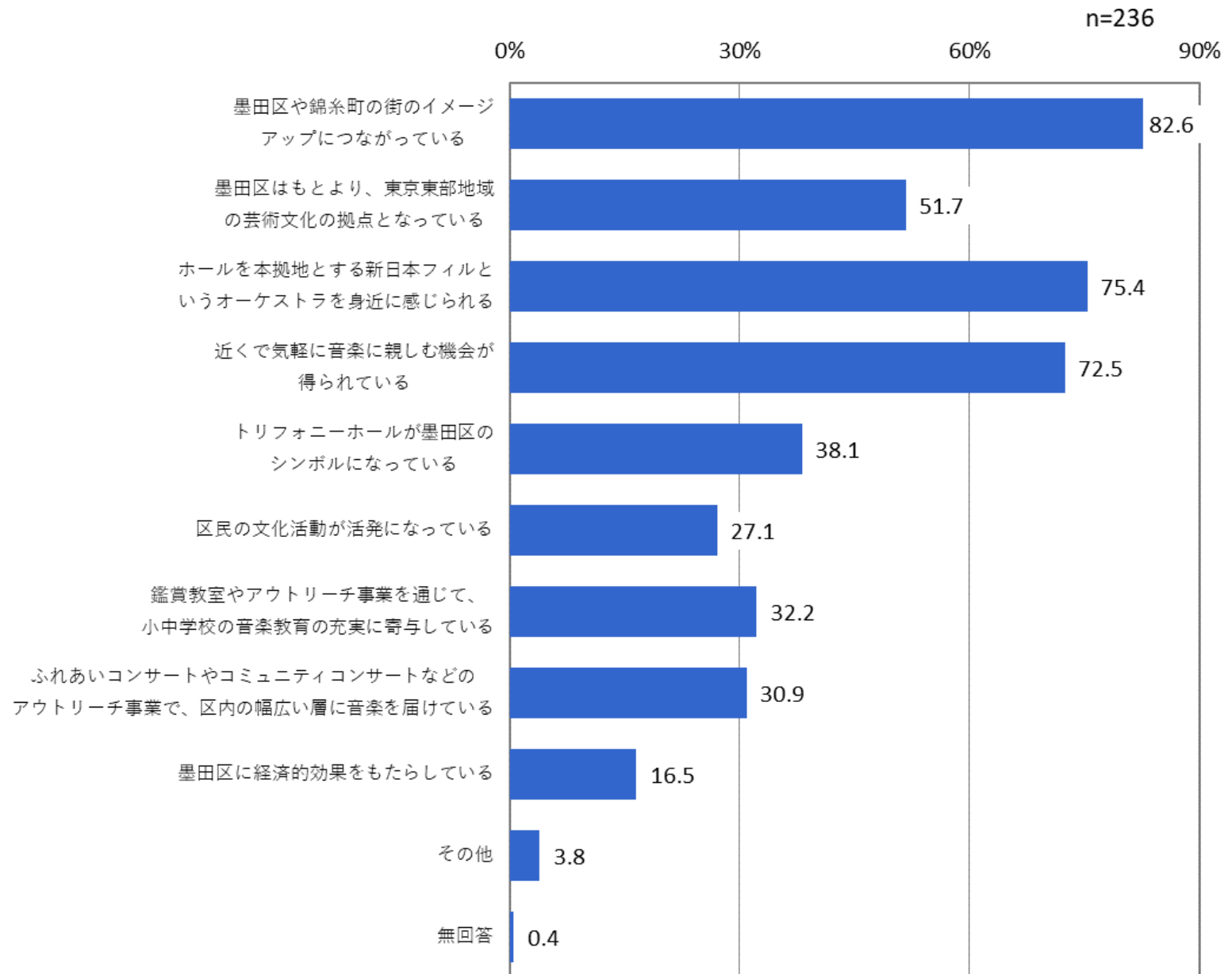
(回答は3つまで)



すみだトリフォニーホールが墨田区において果たしている役割 (P24)

「墨田区や錦糸町のイメージアップにつながっている」(82.6%)が8割を超え、以下、「ホールを本拠地とする新日本フィルというオーケストラを身近に感じられる」(75.4%)、「近くで気軽に音楽に親しむ機会が得られている」(72.5%)、「墨田区はもとより、東京東部地域の芸術文化の拠点となっている」(51.7%)、「トリフォニーホールが墨田区のシンボルとなっている」(38.1%)、「鑑賞教室やアウトリーチ事業を通じて、小中学校の音楽教育の充実に寄与している」(32.2%)が上位である。

(回答はいくつでも)



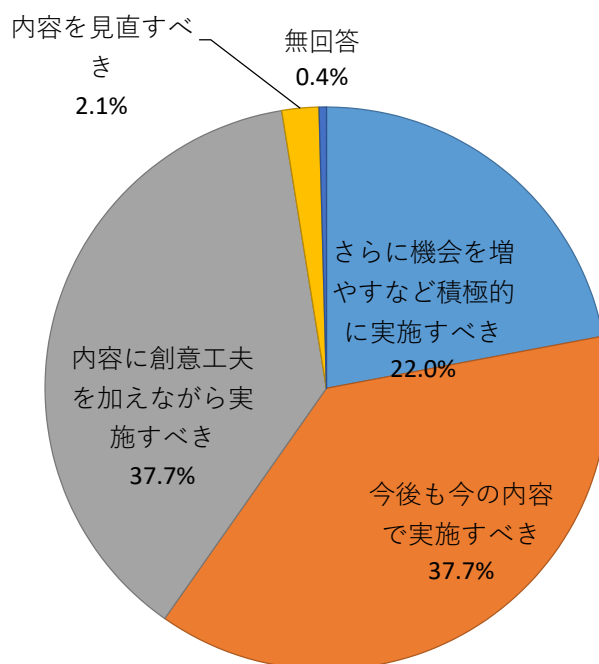
すみだトリフォニーホールで、通年にわたって継続実施しているシリーズ企画についての感想

◆「すみだ平和祈念公演(1997年よりスタート)」(P25)

https://www.triphony.com/concert/archive/peace_concert/

「今後も今の内容で実施すべき」と「内容に創意工夫を加えながら実施すべき」が同数(37.7%)のそれぞれ約4割で、「さらに機会を増やすなど積極的に実施すべき」(22.0%)が約2割となっている。

9割以上の方が、内容に工夫を加えながらも、実施すべきと思っている。



n=236

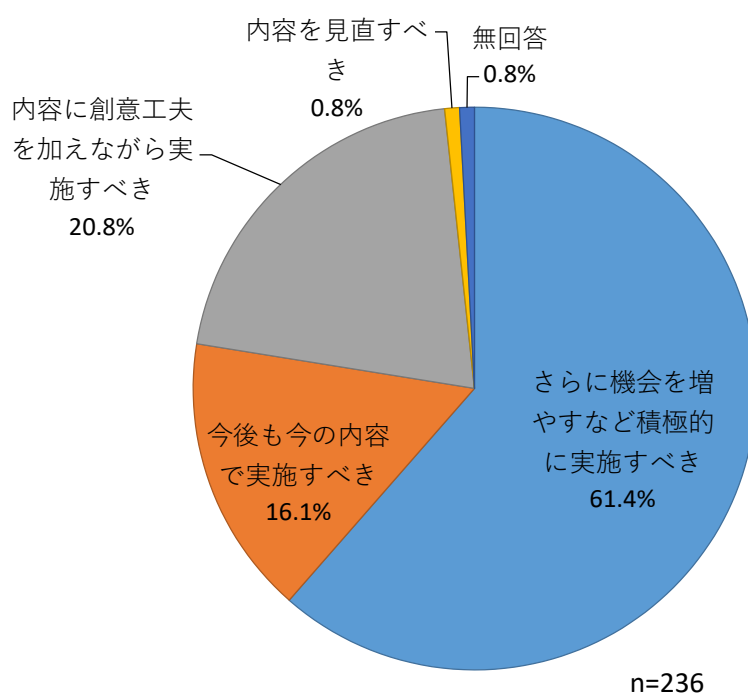
すみだトリフォニーホールで、通年にわたって継続実施しているシリーズ企画についての感想

◆「日本の伝統的な芸能を含め、クラシック以外の親しみやすい公演(1997年よりスタート)」(P28)

https://www.triphony.com/concert/archive/j_music/

「さらに機会を増やすなど積極的に実施すべき」(61.4%)が約6割と最も高く、「内容に創意工夫を加えながら実施すべき」(20.8%)、「今後も今の内容で実施すべき」(16.1%)、と続いている。

9割以上の方が、内容に工夫を加えながらも、実施すべきと思っており、特にそのうちの半数以上が積極的な実施を望んでいる。

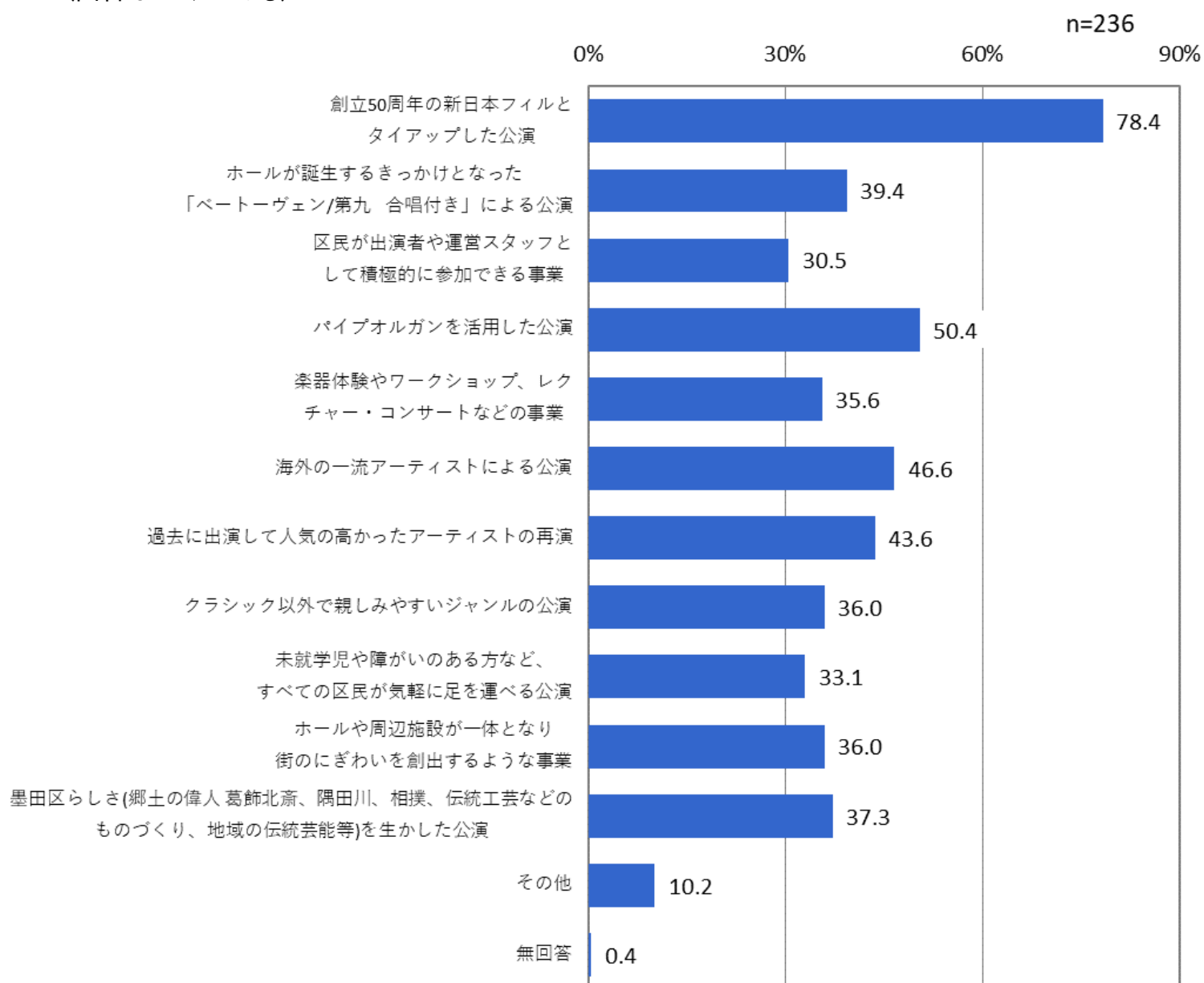


すみだトリフォニーホール開館 25 周年事業としてふさわしい企画 (P29)

「創立 50 周年の新日本フィルとタイアップした公演」(78.4%)が約 8 割と最も高く、以下、「パイプオルガンを活用した公演」(50.4%)、「海外の一流アーティストによる公演」(46.6%)、過去に出演して人気の高かったアーティストの再演」(43.6%)、「ホールが誕生するきっかけとなった『ベートーヴェン/第九 合唱付き』による公演(39.4%)、「墨田区らしさ(葛飾北斎、隅田川、相撲、伝統工芸、伝統芸能など)を生かした公演」(37.3%)などと続いている。

特に、創立 50 周年を迎える新日本フィルのフランチャイズ・オーケストラとしての存在感と、ホールの財産であるパイプオルガンに対する関心の高さがうかがえる結果となった。

(回答はいくつでも)



別紙「調査結果」(令和 3 年度第 1 回区民モニターアンケート集計結果)